

演習問題

「得点できたかどうか」「○か×か」ではなく、問題文を読んだ時に、「その関連の知識が、頭の中にどう収納されているのか、フォーカスポイントはどこか」を簡単に**余白に書き出して**みてください

ウラ模試2

[No.2] 室内の温熱・空気環境に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか

1. 空気を加熱しても、相対湿度が同じ場合、その空気の露点温度は変化しない。
2. エネルギー代謝率は、労働代謝の基礎代謝に対する比率で表され、人間の作業強度を表す指標である。
3. 椅座位の場合、くるぶしの高さ（床上 0.1m）と頭の高さ（床上 1.1m）との上下温度差は 3℃以内が望ましい。
4. 平衡含湿率(平衡含水率)は、材料を一定の温湿度の湿り空気中に十分に長い時間放置しておき、含湿量が変わらなくなった状態(平衡状態)に達したときの、材料の乾燥質量に対する含湿量の割合である。

[No.3] 換気に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか

1. 風量 7,200 m³/h、外気取入れがらりの面積が 2 m²である場合、有効開口率が 0.33 のガラリを設置した。
2. 汚染濃度が定常状態に達した後、室内汚染物質の発生を止めてから、換気回数を 1 回/h で完全混合により換気した場合、1 時間後の室内の汚染物質濃度は、理論上、外気の汚染物質濃度と等しくなる。
3. 定常状態において、外部から室内へ流入する空気の質量は、室内から外部へ流出する空気の質量と等しい。
4. 空気余命は、時間の単位をもつ換気効率に関する指標であり、その値が小さいほど発生した汚染物質を速やかに排出できることを意味する。

[No.4] 気体の汚染物質が発生する室において、イ～ニの条件である場合、室の容積として**最も適当な設定条件**となるのは、次のうちどれか。ただし、発生した汚染物質は、すぐに室全体に一様に拡散するものとし、汚染物質の発生量と室内換気量が定常状態にあるものとする。

条件：イ. 換気回数:0.6回/h

ロ. 大気中の汚染物質濃度：50 μg/m³

ハ. 室内空気中の汚染物質許容濃度：100 μg/m³

ニ. 室内の汚染物質発生量：750 μg/h

1. 25 m³
2. 50 m³
3. 100 m³
4. 室の容積によらない